



理学部長に就任して

理学部長 西川 恭 治



理学部は、その前身の広島文理科大学時代までさかのほれば、60年余りの伝統をもつ学部であります。この長い歴史の中で、私たちの先輩方は、幾多の困難を乗り越えて、数々の輝かしい学問的遺産を残して下さいました。理学部長に就任して、私はまずこの先人たちが残された偉大な遺産を大切に継承し、それを新しい時代に相応しい形に発展させて行くことが何よりも大切だと思っております。

さて理学部は、今年度中に新キャンパスに移転を致します。文理大時代から60有余年にわたって研究・教育を行ってきた現キャンパスを離れるわけですから、それは大変な事業であろうと思います。従って当面はこの移転の実行に全力を尽くさなければならないのでしよう。移転は、大事業であるだけに、構成員全員が一丸となって、共に汗をかき、相励ましあい、いたわりあって、実行に移さなければならないと思っておりますし、それを實現し、達成されたときの喜びを全員で相分かちあうことができるようにすることが、移転に当たっての学部長に課せられた最も重要な課題であると考えております。

新キャンパスでは、既に先に移転された工学部・生物生産学部・教育学部が、幾多の困難を乗り越えて着々と新しい学究の場を築いてきており、理学部もいよいよその仲間入りをする事になるわけですが、都会に住みなれてきているだけに、これまであって当然と思っていたものがなかったり、予想だにできなかった問題につきあたる事も多いと思います。それらの問題に一つ一つ取り組んで、解決して行く努力を積み上げるということは、もちろん、並大抵のことではありません。しかし、

逆にそういう努力を通じて、新しい学問の府を築いて行くということは楽しみを感じさせるものでもあると思っております。

申すまでもなく、近年の「理学」という学問の進歩は目覚ましいものがあります。極端な言い方をすれば、最先端の研究と言えども5年経てば古くなってしまう場合があるというのが現状です。こういう激しく移り変わる学問の分野で先端の研究を維持し続けるということは、昨今の大学の財政事情のもとでは、ほとんど不可能に近いと言えます。しかし、どんなに移り変わりの速い学問分野でも、先人の残した優れた学問的遺産の上に成り立っているものですし、真の基礎科学としての「理学」というのは、正にそのような遺産の上に新しい手法を取り入れることによって発展して行くべきものだと思います。その意味でも、諸先輩の残された貴重な学問的遺産を受け継いでいる当理学部は、キャンパス移転を機会に、そこに先端科学の手法を可能な限り取り入れ、新しい学問を存分に展開して行くべく努力する必要があると考えます。それを現実に實現して行く道は、構成員一同がその持てる力をフルに発揮できるような環境作りをする以外にありません。環境作りとは、決して物質的な面のみを指しているではありません。むしろ、精神面で皆が協力し、力を合わせて汗をかくということの方が大切だと思います。そういう雰囲気を作ることが、学部長に課せられた大切な課題であると考えます。

キャンパス移転を担当する新学部長に就任して、以上述べたことに、誠心誠意全力を尽くして努力していきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお力添えをくださいますようお願い申し上げます。